

## バルト3国

### 紹介者



重久 吉弘氏

日揮 取締役会長・CEO



大平 晃氏

三菱ガス化学 取締役会長



### 次回は

奥村 晃三氏

(大日本インキ化学工業 相談役)  
にご登場いただきます。

大相撲でエストニア出身の把瑠都が活躍している。

今年8月、社用出張を終えた後、そのまま欧州で休暇をとりバルト3国の旅をした。社歴50年になる私は、この半世紀の間、主に欧米と産資源国であるが、多くの国々や地域を訪れ、数多くの知己を得て、相応に見聞を広めることができたと思っている。しかし、バルト3国とのご縁はなかった。初訪問に先立って中公新書『物語バルト三国の歴史』（志摩園子著）をさらりと読んだが消化不良のままであった。「百聞は一見に如かず」という。今回の現地訪問でバルト3国が親しく身近な存在になった。

南から北につながるリトアニア、ラトビア、エストニアから成るバルト3国はロシア革命後の1920年前後に相次いで独立を果たしたが、ナチスドイツとソ連によるポーランド分割占領の渦中で1940年には再びソ連に組み込まれた。独立回復は1991年のソ連の事実上の崩壊を待たなければならなかった。それに先立つ1989年、再独立を願う人々の手を繋ぐ人間の鎖が3カ国六百数十キロメートルを結んだという。

3国とも人口130万～340万人前後の小国ながら、国土はそれぞれがオランダ、ベルギーより大きい。民族の足跡は過去千年に遡る。しかし常に周辺の大國、ロシア、ドイツ、ポーランド、

スウェーデン、デンマークなどの支配を受けた。

3国相互は微妙に民族・宗教・言語を異にする。特徴の一端を言えば、リトアニアはポーランドと関係が深くカトリック。首都ビリニユスはユダヤ人が多く、“北方のエルサレム”と称された。ラトビアは数百年に亘りドイツ騎士団の地主貴族に支配され、首都リガはハンザ同盟都市として繁栄した。エストニアはマジヤール系でフィンランドに親近感を持つといわれる。ヴァイキングの時代から、特に首都タリンは交易の要衝であった。それぞれの首都、ビリニユス、リガ、タリンは共に旧市街がユネスコの世界文化遺産に登録された歴史的由緒ある都市である。

3国に共通するのは異民族による相次ぐ連綿とした被支配と忍従・抵抗である。この目まぐるしい変遷の歴史に触れると、国家・民族・個人とは何かを改めて考えさせられる。3国は共に1991年に国連、2004年にEUに加盟した。この1、2年以内に通貨はユーロに統合される予定である。歴史的経緯から根強い反露感情と西欧化への願望があるらしい。

シグルダの古城出口の露店で1926年の刻印があるラトビアの古銭、2Lati白銅硬貨を手に入れた。東の間の独立を喜んだ80年前の人々の心に触れる思いがした。